

敦賀港開港120年の輝軌跡



▲鉄道の開通により日本海側最大の輸送拠点となった敦賀港（明治30年）「ふるさと敦賀の回想」より

敦賀港の利用状況

フェリー



コンテナなど



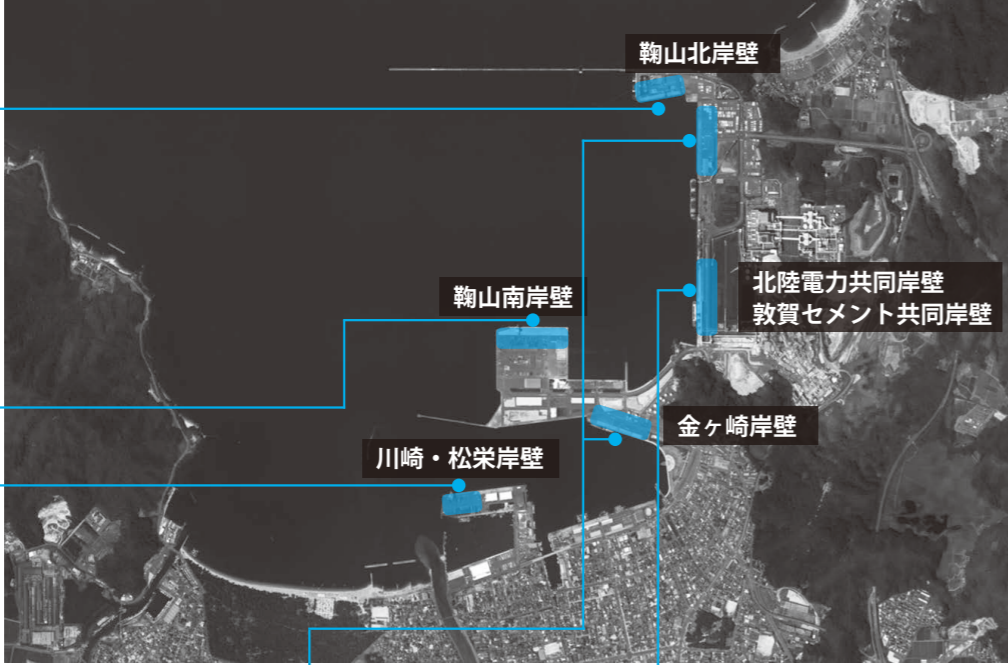
国際RORO船



内航RORO船



石炭・セメント



港の近代化とさらなる発展

昭和57年からは船舶の大型化、貨物のコンテナ化に対応するため、鞠山地区に新港の建設が始まり、平成3年に供用を開始。平成22年に、より大型の船が接岸可能な水深14mの岸壁を備えた鞠山国際物流ターミナルが供用開始されました。

現在、敦賀港は韓国釜山港と国際コンテナ、国際RORO船航路を有するなど、福井県と滋賀県の国際物流拠点としての役割を担っています。国内航路では、これまでの北海道へのフェリー、RORO船航路に加え、今年4月から、日本海側で唯一、本州と九州を結ぶ「敦賀〜博多間」のRORO船定期航路が就航しました。今後、国内物流の拠点としてさらなる発展が期待されています。

また、近年はクルーズ客船の寄港が増加傾向となっており、観光面におけるにぎわい創出でも盛り上がりを見せています。敦賀港は昔も今も、その時代に合った役割を担い、これからも発展し続けていきます。

※RORO船とは、貨物を積んだトラックやトレーラーをそのまま運べる船のこと

開港、そして国際港に

敦賀港は、日本海側の中央に位置し、古くから大陸との交流拠点として、また、北前船をはじめとする日本海側物流の一大寄港地として栄えてきました。明治32年7月に開港場(外国貿易港)に指定され、明治35年にはウラジオストクとの間に定期航路が開設。明治45年から、新橋駅(東京)〜金ヶ崎駅(敦賀)間に欧亜国際連絡列車が走り、シベリア鉄道を經由して、ヨーロッパ各都市と直結する国際拠点港となりました。明治から昭和初期にかけて、ヨーロッパとの交通拠点として栄えた敦賀港には、大正9年に動乱のシベリアで家族を失ったポーランド孤児、昭和15年に杉原千畝氏が発給した「命のビザ」を携えたユダヤ人を迎入れた「人道の港」としての史実も残っています。

敦賀港は7月で開港120周年を迎えました。古くから港とともに栄えてきた私たちのまち。開港からの歴史と現在の敦賀港が果たす役割を紹介します。

年代	主な出来事
明治32年(1899)	開港場(外国貿易港)に指定される。
明治45年(1912)	東京〜敦賀間に「欧亜国際連絡列車」が運行される。
大正9年(1920)	ポーランド孤児が敦賀港に上陸する。ユダヤ人難民が敦賀港に上陸する。
昭和15年(1940)	敦賀港が国の重要港湾に指定される。
昭和26年(1951)	敦賀〜小樽間に大型フェリー就航。
昭和45年(1970)	敦賀〜釜山間に定期外貨コンテナ船(韓国航路)就航。
平成2年(1990)	敦賀新港供用開始。
平成3年(1991)	新港フェリーターミナル竣工。
平成8年(1996)	超高速フェリー就航。
平成11年(1999)	敦賀〜苦小牧間に定期フェリー就航。開港100周年記念事業「つるが・きらめきみなと博21」開催。
平成14年(2002)	敦賀〜苦小牧間にRORO船航路開設。
平成22年(2010)	敦賀港鞠山南地区多目的国際ターミナルが全面供用開始。
平成29年(2017)	海外大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」初寄港。
平成31年(2019)	敦賀〜博多間にRORO船新規航路開設。

敦賀港の定期航路



【国際航路】

航路名	船社名	頻度	航路
釜山航路 (コンテナ航路)	興亜海運(株) 長錦商船(株)	週2便	敦賀〜釜山〜釜山新港〜浜田〜境〜舞鶴〜金沢〜(敦賀) など
	汎洲海運(株)	週1便	敦賀〜蔚山〜釜山〜光陽〜寧波〜上海〜釜山〜新潟〜伏木富山〜金沢〜(敦賀)
釜山航路 (RORO航路)	(株)パンスターライン	週2便	敦賀〜金沢〜馬山〜釜山新港〜敦賀〜金沢〜馬山〜釜山新港〜(敦賀)

【国内航路】

航路名	船社名	頻度	航路
苦小牧航路	新日本海フェリー(株)	週7便	敦賀〜苦小牧〜(敦賀)
	近海郵船(株)	週1便	敦賀〜新潟〜秋田〜苦小牧〜秋田〜新潟〜(敦賀)
瀬戸内海航路 (コンテナ航路)	井本商運(株)	週1便	敦賀〜大竹〜(敦賀)
博多航路	近海郵船(株)	週6便	敦賀〜博多〜(敦賀)